

研究主題及び主題設定の理由

1 研究主題

基本的な生活習慣を身につけさせ児童生徒の学びの習慣化を図る

～ 学習習慣・生活習慣の確立を通して ～

2 主題設定の理由

本地区でも、少子高齢化や家族の形態の変化から、家庭において十分なしつけがなされず、基本的な生活習慣が身につけていない児童生徒が多いように感じられる。また、非行・不登校傾向などの問題行動も話題になるなど、児童生徒のもつ倫理観や道徳性、社会性の欠如も心配される面もある。

そのような中で、生徒指導連携部会では、学力向上を支える基本的な生活習慣に係る課題を次のようにとらえた。

生活面や学習面で、自ら進んで自分の願いや目標をもって自発的に取り組める児童生徒が少ない。また、あいさつや返事、言葉遣い、身だしなみ、予習復習などの家庭学習、提出物の集約、忘れ物などの基本的な学習習慣や生活習慣などについて課題がある。

その解決のための一方策を講じることを目指し、本主題を設定して小・中連携で実践的研究を進めることにした。

研究の仮説と研究内容

1 研究の仮説

小・中学校の9年間を通して、児童生徒に望ましい生活習慣や学習習慣を指導していくとともに、家庭・地域への啓発活動を推進し連携することにより意識が高まり、学力を支える基盤をつくることができるだろう。

2 研究内容

望ましい生活習慣や学習習慣が身に付いた児童生徒を、話を静かに聞くことができる児童生徒、指示を受け止め行動ができる児童生徒、あいさつができる児童生徒、正しい言葉遣いができる児童生徒、自学のできる児童生徒と考えることにした。

そこで、本研究ではこれらを「あいさつ」「返事」「家庭学習」の定着の視点に立ち、小・中連携で取り組むことにした。

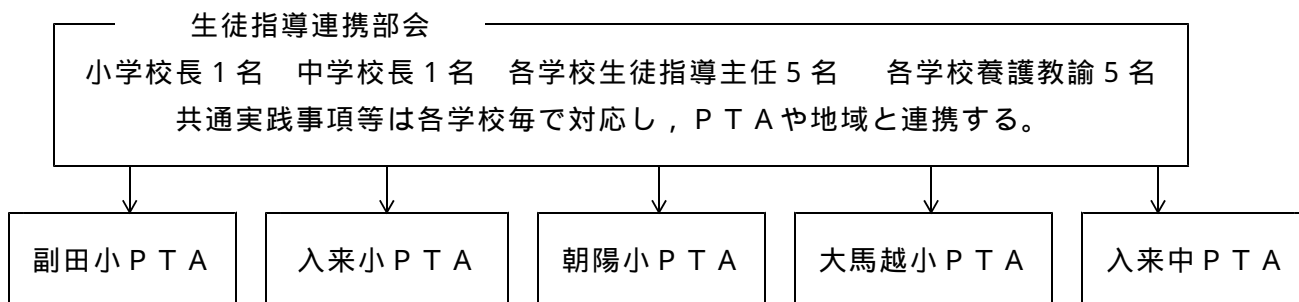
研究の組織、研究の経過

今、子どもたちには、自律して自ら積極的に意欲をもって行動する力が求められている。子どもの意欲を育てる場として、また、子どもたちの好奇心を伸ばし、育てる大きな支えとして学校はもちろんであるが、家庭の役割はとても大きいものである。学力向上にも影響し、生活そのものが人間形成につながる営みである基本的な生活習慣を確立していくことは、家庭教育の大きなテーマのひとつである。家庭教育の充実を図るためには、個々の家庭のみならず、学校・家庭・地域が連携して目標に取り組んでこそ、学校・地域全体の子どもたちの課題解決につながっていく。

本研究では、学校・地域・家庭が一体となって総合力で進める教育活動の実現のために「生徒指導連携部会」を設置し、PTA役員を加えた研究を行うつもりであったが、時間的に困難な面があり本年度は次のような研究組織で進めてきた。

1 研究の組織

生徒指導連携部会は、小学校長1名・中学校長1名・各学校の生徒指導主任（5名）及び養護教諭（5名）の計12名で組織した。また、PTA等との関わりの構想は次の通りである。



2 研究の経過

- 5月25日（木） 生徒指導連携部会（入来中学校）
「あいさつ」「返事」「家庭学習」の定着を確認
- 6月下旬 第1回 家庭学習調査アンケート（各小学校，中学校）の実施，集計，
分析（地域養護教諭部会）
- 7月 4日（火） 入来地域PTA連絡協議会で協力依頼，及び共通理解（朝陽小学校）
- 7月中旬 ブロックPTAで啓発 副田ブロックPTA：12日（水） 大宮・城
山ブロックPTA：13日（木）朝陽，大馬越ブロックPTA：14日
（金）
- 7月31日（月） 入来地域学力向上推進協議会研修会（生涯学習センター）
「生徒指導及び養護教諭部会等の取組例」の紹介
- 9月26日（火） 拡大事務局部会（入来小学校）
「各学校の取組状況」の報告と情報交換
- 10月中旬 第2回 家庭学習調査アンケート（各小学校，中学校）の実施，集計，
分析（地域養護教諭部会）
- 12月25日（金） 教育講演会后「原稿執筆確認」（生涯学習センター）

研究の実際

各学校がそれぞれに、実践的研究を行ってきたが概ね次のようなことを共通理解して具体的に取組んできた。

学校の実情に合わせて
活動組織の構成等
各校の家庭教育の課題把握
「あいさつ」についての具体例
「返事」についての具体例
「家庭学習の習慣化」の具体例
入来地域養護教諭部会との連携
学校・家庭・地域が一体となった実践